門店パレアンヌ（☎018-874-9883）が製造・販売を行っており、売り上げの一部はNPOヤマビルプロジェクトの活動資金として寄付され、メンバーの研究費などに活用されている。

地方のトピックニュース

◆女子高生が開発したヤマビル忌避剤「ダウンヒル」発売

5年前に秋田県立金足農業高校の女子高生グループが開発したヤマビルの忌避剤が商品化され、6月1日に発売された。ヤマビルの増加が全国各地で問題になる中、現場で使いやすく、ヤマビルの拡散防止にもつながる新商品として注目されている。

発売された忌避剤の商品名は「ダウンヒル」。ヤマビルが嫌うメントールやサリチル酸などを吹き付けるスプレーで、1本（50㎖、税込1350円）で400回ほど噴射できる。

ヤマビル忌避剤を開発した（写真左から）上村わこさん、加藤愛咲さん、切明畑沙織さん、伊藤絵梨さん、田中大介教員（当時）

この忌避剤は5年前に金足農高で「ヤマビルプロジェクト」を始めた女子高生4人（当時）が同校の教員であった田中大介氏（現・総合研究大学院大学特任助教）の指導を受けながら開発。放課後などを利用して、ヤマビルの生態などを調査し、忌避効果がある成分やその組み合わせ、分量などについて実験を繰り返した。その成果を、平成22年の国際シンポジウムや平成24年の日本農芸化学会などで発表したところ、国際シンポジウムでは審査員特別奨励賞を、農芸化学会ではジュニア部門の銀賞に選ばれるなど内外から高い評価を受けた。これを踏まえ、自力で特許取得に向けた書類作成などに取り組み、3年前に特許を申請していたところ、昨年の3月に認可され、商品化につながった。

6月に発売された「ダウンヒル」

当時のメンバーは秋田県立大学などに進学したが、卒業後もNPOヤマビルプロジェクト（田中大介代表）を立ち上げて、野外での被害をなくすための啓蒙活動や出前授業、忌避剤の研究を続けている。

「ダウンヒル」は、秋田市の香水専